

# 近況報告～荒谷 久美江様より～

体が動かなくても声が出なくても、人間らしく生活ができるのは素晴らしいことだと思います。

家族と共倒れしないために私は一人暮らしを選びました。

家族の理解と最大の協力で在宅を実現することができました。

長年病院で療養しましたが、やはり人生の時間がもったいなく思えました。言葉に出せないほどの心無い扱いも受けました。

しかし、ふと鏡にうつる自分の姿を見ると、随分変わり果てていて、オマケに声も出なければ「仕方ないなあ～」と思いました。

ALS の人たちはいったいどんな暮らしをしているのか、知りたくて ALS 協会の総会に行きましたが、病院で療養している方は一人も出席していません。みなさん自分の介助者を連れて行き届いた介助を受けているのが羨ましく思いました。

ALS にはやはり十分にコミュニケーションが取れる介助者が必要で、介助者によって人として生きられると言っても過言ではないと思います。自分の意思を伝え日常生活ができることは有り難い限りです。

人それぞれ何を幸せと思うかは違いますが、私は長年病院の窓から見えるマンションのベランダに洗濯物が干してあるのを見ては幸せを感じ、心がほっとしていました。

病院の周りはマンションだらけでしたので、たまにベランダで洗濯物を干す姿も遠くから見える時もありました。

家々によっては、病気の人がいるかもしれない、怪我をした人があるかもしれない、人生に疲れた人があるかもしれない、それでも洗濯をし生活をしているのは幸せに思います。当たり前のことができるのは本当に幸せなことです。

在宅を実現できて、ふと気がつくと自宅にはベランダがあり夏には洗濯物を干す生活をしています。

日常を支えてくれるヘルパーさんの姿から幸せを感じるようになりました。こんな日が訪れるとは思っていませんでした。

在宅でも病院でも、様々なことを乗り越えなければなりません、目に映るもの耳に聞こえてくるものから心を豊かにし、一日一日支えられていることに感謝して過ごしていきたいと思っています。